

# 実践研究報告書

## 子どもの道徳的実践力を高める学習指導法について

橋本和紀

(いの町立枝川小学校)

### 1. 平成 25 年度までの研究

道徳の授業における発問構成の工夫と体験活動を生かした道徳の授業の工夫を行うことで、子どもが、「問わされる状態」から「主体的に問いかける状態」へと転換し、子どもが道徳の時間において主体的に道徳的実践力を高められると考え、その指導法の研究を行った。

#### (1) 発問構成の工夫

「問いかけ型発問構成」「自己内対話促進型発問構成」「多面的判断促進型」「感動からの問いづくり型発問構成」「感動追求型発問構成」の5つの発問構成を考え、その中で、特に「問いかけ型発問構成」と「自己内対話促進型」の2つの発問構成について研究を行ってきた。この研究を通して、資料の特質によって、より有効な発問構成があるということが分かった。

#### (2) 体験活動

「行事体験シート」と「道徳と各教科、特別活動の関連表を生かした授業づくり」という2つの視点から研究を行った。この研究を通して、子どもは、主人公の道徳的な問題に、体験活動のことを思い返ししながら自分を重ね、感じたことや考えたことをもとに、自己の生き方についての考えを深めることができたと考えられ、効果的に体験活動が道徳の授業に生かされたと考えることができた。

#### (3) 成果と課題

2年間の研究で一定の成果を得ることができたが、発問構成においては、5つの発問構成のうち、2つしか研究を行うことができなかった。そこで、今年度は、これまで研究してきた2つの発問構成の研究を深めることはもちろん、残りの3つの発問構成についても研究を行うこととした。

### 2. 平成 26 年度の研究

#### (1) 発問構成の工夫

##### ①多面的判断促進型発問構成

多面的判断促進型発問構成とは、資料中の登場人物の感じ方、考え方、行為行動に対して、学習者の多面的な判断を促し、そう判断した根拠を考えさせ語らせることによって、生き方の自覚を深めるための発問構成である。

この発問構成を、「ラッシュアワーの惨劇（学研）」[生命尊重3－（1）]という資料で授業実践を通して研究を行った。この資料は、夕方のラッシュアワーのとき、駅のホームに落ちた人を助けようと2人の男性がホームに飛び込んだが、命を失ってしまうというものである。授業の中心発問において、「何のためらいもなくホームに飛び込んだ2人のことをどう思いますか。」という発問を行った。賛成だと思えば○、反対だと思えば×、どちらともいえないと思えば△のカードを挙げるようにして子どもに判断させた。そして、なぜそう考えたのか理由を発表させ、意見の交流を行った。その中で、「落ちた人を助けたい。」や「見殺しにしたくない。」という○の意見に対して、「助けるのはいいことだが、自分の命を落としてまでやることなのか。」や「まずは自分の命が大事だ。」という×の意見が出た。そして、「これでよかったのだろうか。」というどちらにするか迷っている△の子どももいた。お互いに意見を交わしているうちに、△だった子どもも○、×の意見を持てる子どももいた。この授業の感想を見てみると、「価値の理解」について書いている子どもが6人、「自分の生活に当てはめて考えている」子どもが12人、「これからの生活に当てはめて考えている」子どもが3人と分類することができた。このことから、ただ単に価値の理解に留まることなく、自分の生活に当てはめたり、これからの生活に当てはめて考えられたりと、ねらいとする価値を発展的に捉えることができていると考えることができる。

このことから、多面的判断促進型発問構成は、主体的に道徳的实践力を高めるために有効な発問構成であると考えられる。

## （2）行事体験シート

今年度も、学校行事をはじめ、たくさんの体験活動を行ってきた。その際、行事体験シートにねらいを書き、体験後にはふりかえりを書くようにした。この行事体験シートを有効に活用するためには、子どもの身近なところに保存しておくことである。行事体験シートは、道徳ノートに貼り付け、道徳の授業中に見えるようにした。その行事体験シートを見ながら自分の考えを整理している児童も見られた。また、体験を行っている最中に、教師が道徳的な視点で声をかけることで、子どもの印象に残り、それがふり返りや道徳の授業での発言につながっていった。さらに、その行事体験シートに目を通しておくことで、意図的指名が可能となり、ねらいとする価値の自覚を深めることにつながっていったと考えられる。

## （3）成果と課題

多面的判断促進型発問構成について研究を行ったことで、より資料の特質に応じて発問構成を選択することが重要である、ということが分かった。さらに、体験活動と道徳の授業との関係についても、体験活動の中に道徳的視点を持つことで、道徳の授業において自我関与しやすくなることが分かった。今年度に行う予定であった感動からの問いづくり型発問構成、感動追求型発問構成の2つの発問構成の研究ができなかったため、今後、研究を進めていきたい。